

# 保護犬の啓発ポスター掲示のお願い



\*ポスターはAタイプ(左)とBタイプ(右)の2種類があります。  
A1サイズからA4サイズまでを用意しています。

## 子どもたちにポスターを通して 命の大切さを伝え 保護犬という選択肢を知ってもらいたい

私たちは、犬を飼おうと思った時に、保護犬から迎えるという選択肢を考えてもらうことで、一頭でも多くの犬の命を救いたいと、動物の愛護啓発活動をしている非営利団体の保護わん(一般社団法人 保護犬のわんこ)と申します。

この度、保護犬の啓発ポスターを学校の校内に掲示のご検討を頂きたく、ここにお願いを申し上げます。

このポスターを子どもたちに見てもらうことで、犬という身近な動物の存在を通して、命の大切さについて感じ考えてもらい、学校やご家庭の場でも、語り合えるようなきっかけづくりになればと考えています。

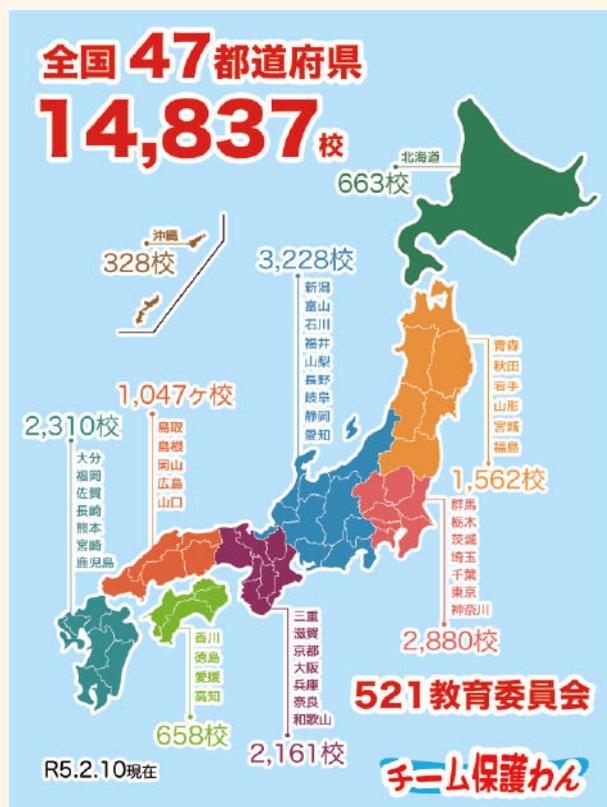
保護犬の啓発ポスターに掲載された幸せになった元気で可愛い保護犬たちの存在を知ってもらい、保護犬や動物へ関心を向けたり、命の大切さを知ることによって子どもたちに「安易に犬を飼(買)ったり、無責任に捨てたりしてはいけない」という価値観を持って貰いたいと思っています。

そうして、少しずつではありますが、保護犬や動物に対する社会全体の意識と価値観を変えることで、人間と動物の共生の明るい未来があると考えています。

この保護犬の啓発ポスターは、東京都教育庁をはじめとする521の地域の教育委員会を通じて、全国47都道府県の14,837ヶ所の小中学校、高校、特別支援学校などへ掲示を行なわせて頂いています。



ポスターの掲示は学校だけでなく、様々なお店や図書館、幼稚園、公民館、区役所等各種施設、少年院など、幅広く掲示しています。



## これからの将来を担う子どもたちが、社会の価値観を変える 日本の動物愛護のリーダーになります

この保護犬啓発ポスタープロジェクトは、環境省と文部科学省の後援を受け、広く動物愛護について、全国の教育の現場からのアプローチを行うために企画されています。

ポスターのデザインと文言は、これまでには無い明るいイメージで命の大切さを伝える学校などにも掲示しやすいコンセプトで考えられています。

ある教育委員会より、お言葉を頂きました。

"殺処分問題を通じた現状を理解することは、いのちの大切さについて児童生徒が主体的に学ぶ機会につながるという意味で、他の学習分野にも良い波及効果が期待できると感じております"

ぜひ、この保護犬の啓発ポスターを学校の校内に掲示をさせて頂きたく  
よろしく願いを致します。

\*このポスターは、全国の愛犬家の多くの思いをのせて、クラウドファンディングで資金が作られ、無償のボランティアによって運用されています。

保護わん(一般社団法人 保護犬のわんこ)とは、

私たちは「犬を飼う第1選択肢を保護犬に!」をメッセージに、保護犬の新しい飼い主と仲間が集まった非営利団体です。SNSで集結したのがはじまりで、現在インスタグラムのフォロワー数15,000名、実働メンバー数は約900名で構成されています。

これまでの保護わんの活動の詳細や団体の沿革につきましては、誠にお手数ですが右側にありますQRコードからホームページへ進んで頂いて、ご確認いただけますと幸いです。



これまで私たちは、保護犬の「写真集」や「かるた」を製作して、保護犬を知ってもらう為のプロジェクトを行ってきました。

全国の小中学校などの教育現場や図書館に広がったこれらの活動の評価はとて高く、大きな成果を上げています。

＜写真集の主な寄贈先＞

全国243校の小中学校、幼稚園  
 国立国会図書館 東京都立図書館 愛知県図書館  
 大阪府立図書館 沖縄県立図書館 大阪市内の全図書館  
 神戸市内の全図書館など、95図書館、他



### 【保護犬の問題につきまして】

保護犬とは、さまざまな事情（飼育放棄、野犬、迷子、ペット業界の問題など）で、保健所や動物愛護センターなどに持ち込まれた犬などのことです。その中で、新しい飼い主が見つからないなど引き取り手がいない犬は、殺処分されるしか選択肢は残っていません。  
 （※日本では毎日65匹もの犬猫の尊い命が殺処分によって奪われています）

殺処分ゼロに！ みんなで蛇口を閉めましょう！  
 殺処分の数は数字の上では年々減っています。しかし、その分引き出しをする愛護団体や、個人の預かりさんの負担が増え、パンク寸前になってしまっています。  
 保護犬を生み出す蛇口は、人々の意識と価値観（消費者行動）にあると考えます。これを変えなければ、保護犬はいつまでたっても生み出されてしまいます。  
 需要（安易に流行の犬種を飼いたいというような）を無くさなければ、悪質な繁殖や生体販売という供給の構造も無くならないでしょう。

私たち一人一人が問題を知り、考えて変わらなければ、本当の意味での実行性のある法律の改正も難しいですし、犬を家族に迎える方法も一向に変わりません。  
 命の大切さを知ってもらい、動物との共生の大切さと素晴らしさを伝える事が大変に重要だと考えています。  
 欧米に比べて大きく遅れている日本の動物愛護を、変えていきましょう。

「国の偉大さ、道徳的発展は、その国における動物の扱い方で判る」 マハトマ・ガンジー

ホームページ <http://www.bbtv.jp>  
 Instagram [http://instagram.com/hogoken\\_wanko](http://instagram.com/hogoken_wanko)



〒166-0012 東京都杉並区和田3丁目46-4  
 保護わん (非営利型一般社団法人 保護犬のわんこ)  
 Tel 090-3002-2148  
 Mail [hogoken@bbtv.jp](mailto:hogoken@bbtv.jp)

